

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171600184
法人名	医療法人 竜門堂
事業所名	竜門堂グループホーム ことぶき荘
訪問調査日	平成20年3月26日
評価確定日	平成20年6月2日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171600184
法人名	医療法人 竜門堂
事業所名	竜門堂グループホーム ことぶき荘
所在地	佐賀県武雄市山内町大野6360番地6 (電話)0954-20-7119

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年6月2日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 2階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,600 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大野病院・竜門堂医院・毛利医院・ふるの歯科医院・北村歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは併設の病院に近く、医療との連携が日常的にできることから、入居者や家族にとっての安心となり、最期までホームで暮らしたいとの希望により、病院やホームの職員の協力で、成し遂げた例もある。又、元結婚式場を改装しているため、ホールは広々とした畳敷きに炬燵やソファを置き、思い思いにゆったりと過ごされているのが窺える。改築時に段差を解消するのではなく、生活環境として利用し、筋力の低下防止に役立てており、ADLの向上にも繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>これまでの評価を活かし、ホーム便りの作成、ぬくもりのある看板作り、居室に馴染みのある家具を持参してもらう為の取り組みなど改善してきたが、昨年は、地域との交流が改善課題であり、婦人会との交流や区長を通じて区の運動会に参加したり、お便りを配布するなど、出来ることから取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の作成においては、家族の面会時に意見を聞いていたが、今後は家族の都合に合わせて会議を開催するなど、参加を得るような働きかけをしていきたい。災害対策においては、今後地域の消防団へ働きかけをしていく予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの紹介をして、理解をいただいている段階である。行政から火災などの災害対策に関する質問があり、ホームとしては、今後消防団など地域の協力を得るような取り組みをしていく予定である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族から、行事をする時には休日にして欲しいとの要望があり、なるべく多くの家族に参加して頂けるように、今後は休日に予定を立てたいと考えている。意見や要望はサービス改善の機会ととらえて今後も質の向上に役立てることとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の方には散歩の途中で挨拶を交わしたり、話しかけたりして顔なじみになり、通りがかりに野菜を頂くこともある。地域の行事で流鏝馬(やぶさめ)祭りを見学したり、又運動会やおくんちなどへの参加を入居者の希望により今後も続けて行く予定である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念の中に地域との交流について盛り込まれているが、ホーム独自でも職員が協同してモットーをつくり、共に目標を持って取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝唱和し、月1回のミーティングでは、理念を実践する為に、ケアの方針について申し合わせをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方には散歩の途中で挨拶を交わしたり、話しかけたりするうちに顔なじみになり、通りがかりに野菜を頂くこともある。地域の行事で、流鏝馬(やぶさめ)祭りに参加したり、ホームの行事に地域の役員の方を招待するなどホームを理解して頂くよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの評価を活かし、ホーム便りを発行したり、居心地のよい空間作りや、玄関にぬくもりのある表札作り・入居者の馴染みの家具を持参してもらおう工夫など、できることから具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、行政、家族代表、法人代表に、ホームの季節の行事に参加してもらうことを兼ねて行っている。ホームの紹介や評価の報告をしている。家族からも意見が出て、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生保の方が利用されていることもあり、福祉課より訪問を受ける機会が多く、電話による相談も出来ている。又介護相談員の受入れにより、一緒に折り紙をしてもらうなど利用者との交流も見られる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態については、家族面会時に報告したり、ヒヤリハット報告や受診についての報告などは随時、実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に近況報告を行うとともに、意見を聞くようにしている。直接言いにくいことは、意見箱を利用していただくよう説明している。意見はサービス改善の機会ととらえ、これまでも数件の意見が出され、改善が図られてきている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員は馴染みの関係が大切なことを、法人が理解しており、異動は極力していない。代わる場合は利用者へのダメージを防ぐよう、利用者や家族への紹介や、他の職員がフォローするなど、自然に馴染みの関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に職員教育の委員会があり、勉強会や研修会の計画が立てられホームの職員も参加し、講師を務めることもある。県外の認知症に関わる研修に参加できる機会もあり、個人が希望する研修に参加できるよう勤務調整にも配慮している。研修参加後には、報告会で全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入っており、研修会へ参加している。意見交換は参考になる内容もあり交流する機会と考えている。又法人内の交流、他のグループホームの見学、ケアマネジャーの訪問もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者に職員が会いに行き、顔なじみになったり、数日間体験入居される方もおられる。又、不安な気持ちを理解し、安心して過ごして頂けるよう寄り添うなど、精神的なケアに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念に「黒子のケア」と掲げているように、職員が手や口を出しすぎないケアを心がけ、ミーティングで意見を出し合いながら、日常的に見守りが行われている。節句のふつだごや、七夕だごなど、入居者から教わる機会も多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、希望や意向を把握するよう努め、介護記録に本人の言葉で書きとめることで、本人の気持ちが分かる文章を職員が共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の意見を反映した介護計画を作成している。会議では全職員が必ず意見を言えるように促している。計画には家族の意向や希望を、自筆で記入いただき、日ごろのケアに反映するよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは6ヶ月毎に行い、状況の変化があれば、その都度変更している。評価も定期的に行い、家族へも連絡し、意見を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療との連携により、入院が回避できたり、入院を勧められても、家族の希望で、最期を看取ったりと、その都度職員は悩みながらも家族と検討し対応してきている。また、外出支援を地域の人の協力を得ながら行っているなど、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の多くは地域の方で、併設の病院がかかりつけの為、事業所や入居者との関係としては問題はない。別の病院を受診されている方には希望を聞き、希望の病院への受診の付き添いもしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人で重度化した場合の指針が示されており、その方針を入居時に伝えている。その後も本人の気持ちを大切に考え家族やかかりつけ医と相談しながら対応していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた支援で、言葉かけもやさしくプライバシーに配慮されている。職員から守秘義務についての誓約書をもらい徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に希望を聞き、沿うように努めている。意向を現せない方には、家庭だったら、自分だったらと本人の立場にたち、なるべく時間の決まりごとをせず、入居者のペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、旬の食材を使い、好みに合わせた献立を立てている。買い物や野菜刻みなど力に応じた手伝いをして頂き、食事も職員と一緒に会話を楽しみながら食べられている。家族の面会時にも一緒に食べていただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最後にゆっくりと入りたいなど、入浴順については、希望により決めているが、一人ひとりにあわせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日ごろの会話の中から生活歴や趣味などを把握し、料理、草むしり、花の水やり、芋つるの皮むきなど、できることをして頂くことで、イキイキとした生活を支援するように心がけている。趣味では、カラオケやゲームなど楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩が出来るよう支援している。近くには店が無いが、併設の病院の売店での買い物も楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放している。開放することにより、「いつでも出られる」という意識を持っていただくことの大切さを職員が理解し、見守り支援する取り組みをしている。出られる時には、一緒について行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は入居者と共に行っている。母体の病院からの協力は得られるが、地域の協力を得るような働きかけはされていない。	○	夜間や職員だけの誘導の限界を具体的に確認し地域の方々の参加や協力を得た避難訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの咀嚼、嚥下状態、食べる量を把握し、合わせてバランスよく摂ることが出来るようにしている。食事や水分量のチェック表により、1日を通じ摂取量が把握できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や電気製品など、家庭的なものを使用している。ホールは広くゆったりしており、畳敷きで炬燵の周りに入居者が集まり、居心地よくおしゃべりをされている様子が窺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	評価で居室に生活感が少ないことがあがり、ホームで準備していた家具をなくしたことにより、筆筒など持参されるようになった。仏壇やご主人の写真を持参したり、思い思いに自分の部屋として使われている。		